

平成 22 年度第 6 回うらやす市民大学運営委員会議事要旨

- 日 時 : 平成 23 年 1 月 25 日 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
- 場 所 : うらやす市民大学受講室
- 出席者 : 古在委員長、山内副委員長、宮崎委員、阪本委員、杉村委員、東委員、武田委員、高橋委員、山本委員、中山委員、織戸委員、伊藤委員
- 事務局 : 金子市長公室次長、永井協働推進課長、斎藤副主査、岩波事務長、金子副主任、一戸主事、仲澤事務局サポーター、林事務局サポーター

■会議次第 :

- (1) 開会
- (2) 委員長挨拶
- (3) 議題
 - ・平成 23 年度授業科目について
 - ・その他
- (4) 閉会

■議事概要 :

●平成 23 年度授業科目について

□事務局説明

- ・カリキュラム検討委員会から提出された案をもとに、事務局およびカリキュラム委員が科目コーディネーターと調整し、全 18 科目（共通科目 2 科目、一般科目 16 科目）を設定した。
- ・若い世代を取り入れるための試みとして行った「うらやすで自分磨き」の対象を子育て世代に変更して実施する。コーディネーターは江戸川総合人生大学で学科長を務められる佐谷先生に依頼。平日の日中、保育をつけて行う。子育て世代の女性は、結婚や出産を期に家に入られている方が多く、定年退職された方と同様、日頃、自身が持つ知識や技能を生かせないでいる状況があることから今回対象とした。
- ・「うらやすから介護ボランティアをつくる」は、前回までコーディネーターを依頼していた石垣先生がご多忙ということから、地域医療振興協会にご相談し、「うらやすの高齢化社会を考える」という講座を設定した。
- ・その他の科目については内容の充実を図り、通年制の科目として設定した。

□主な意見（委員長：長、委員：委、事務局：事、サポーター：サ）

委：授業科目の名称に「うらやす」を入れ、統一したほうがよいのではないかと。

事：現在の名称は、コーディネーターの先生がご提出いただいたとおり記載させていただい

ている。できれば本日の会議で名称についても検討いただきたいと考えている。併せて、定員についてもご検討いただきたい。

事：カリキュラム検討会でも科目名称については統一したいとの報告があった。最終段階で調整したい。

委：介護予防リーダーの回数が14回に増えたのはなぜか。また、この講座を受講した人から「養成講座であれば、次につながるような授業内容にしたほうがよい」という話を聞いたが、そのあたりはどうなっているのか。

事：修了後の出口づくりについては、担当部署と従来から調整しており、受け皿として「アカデミア」という団体が用意されている。また、既存団体に入らずに修了生が団体を組織していただいてもいいと考えている。

委：授業回数の年間267回だが、会場は大丈夫なのか。

事：267回という授業回数については、教室の稼動状況を勘案して実施できる回数。

委：授業内容から「～をつくる」から「～を提案する」に変更しても構わないか。

長：「一歩進める」というような名称であれば「～をつくる」に拘らなくてもいいのではないのか。

委：「浦安市介護要望リーダー養成講座」だけ授業時間や回数がほかの授業科目と異なるが、このような形態でないといけないのか。

事：この授業科目は、市民大学で開講する以前からある科目で、担当コーディネーターからは、すでにプログラムが出来上がっているため、90分授業では足りないと言われている。前は、市民大学の授業時間でご案内し、延長してしまう時間については仕方ないとしていたが、受講生から、授業時間をきちんと明示してほしいとの意見があり、今回は授業時間を13時～15時と記載している。

サ：「協働」に関する授業は、市民だけが話しを聞くのではなく、行政職員にも聞いていただき、市民と行政が共通の意識を持っていかなくてはならないと思うがいかがか。

事：職員には職員研修として別のプログラムがあるが、機会をみつけてPRしていきたい。

委：市の職員が学生として授業を受ける場合は、どのようになるのか。

事：職務免除を受けるか、休暇を取ることになる。現在、学生登録している職員で、平日の授業を受講する場合は有給休暇を取得している。

委：今回、カリキュラム委員として検討してみて、科目に対する考え方が大きく変わった。今までは、授業を受講してみて「ああ、なるほど。こういうことか。」と後から講座の内容を理解していた。これからは学生自身が、自分が受けようとする講座がどういう内容がいいのかを考えていくことが必要だ。4期の募集の際に科目内容をPRできたらいいと思うが、そのような機会はあるのか。

事：今までも学校説明会や体験授業を開催している。事務局ではより多くの方に受講していただくために主に新規の人を対象に行っている。

委：今回は新規の人を対象にするのではなく、既存学生を対象に、今までの科目とはどのように違うのかを説明したほうがいいのではないのか。

長：カリキュラム委員が中心となって、説明会等の企画をしてみてもどうか。

委：シラバスの書き方がバラバラ。どの回に何をするのが重要ではなく、全体的な内容を伝えることが重要。何かいい方法はないか。

事：3 期から募集案内にコーディネーターの先生方のメッセージを掲載し、先生の講座に対する考え方や全体的な内容についてお伝えしているが、もっとわかりやすくしたほうがいいのか。

長：これだけ市民大学が充実してきた中で、記録を残していくことが必要。例えば各授業の際に配布された資料について担当講師の承諾を受け、多くの受講生が自由に閲覧できるなど。それを冊子にまとめ、市でも回覧してみてもいいか。

委：得意な学生などが授業のビデオ録画・編集行い、視聴覚資料としてもいいのではないか。

●学生会の発足について

□山本委員から説明

- ・学生会の発足はかねてからの検討事項。
- ・学生委員 5 人の総意で来期から発足できたらと考えている。
- ・2 月に学生委員、各講座の世話役、学生有志のおおむね 20 名程度で準備会を立ち上げ、検討していく予定。
- ・検討に当たっては、多くの学生の意見を取り入れ、オープンな組織にできたらと考えている。次回の運営委員会で検討内容を報告していきたい。

□主な意見（委員長：長、委員：委、事務局：事、サポーター：サ、山本委員：山）

長：対象は誰になるのか。学生会と同窓会との関係はどうするのか。

山：学生会は学籍を持っている方に限るのではないか。同窓会との関係も含め、今後、準備会で検討していきたい。

●うらやす市民大学から誕生した団体について

□事務局説明

- ・市民大学の真価は市民大学で学んだ成果をどれだけ地域でいかせたかだと考えている。
- ・来年度、市民活動センターも協働推進課の一部となることから、今後のこれらの団体の推進に努めていきたい。

□主な意見（委員長：長、委員：委、事務局：事、サポーター：サ）

委：一覧表にアカデミアが入っていないのはなぜか。

事：アカデミアは、猫実包括支援センターが主催した浦安介護予防リーダー養成講座終了後発足した団体。市民大学内で発足した団体ではないため除外している。

サ：団体が増えるに従い、活動場所（教室）の確保が困難になっていくが、今後どのように

していったほうがよいか。

会：学生会が頑張って、市に活動場所の確保を求めてみたらどうか。

委：以前、富岡小学校の余裕教室の活用方法について検討していると聞いたが、そこを利用することはできないだろうか。

事：富岡小学校の余裕教室については、概ね活用の方向性が決定している。

●うらやす市民大学特別公開講座について

□事務局説明

- ・今までは現役学生を対象に講座を行っていたが、来年度からは、広く市民を対象とした講座を開催する。

以上